

赤旗全国大会とアマ棋戦の現状

日本共産党と「しんぶん赤旗」は、多くの人びとが囲碁・将棋に親しみ、気軽に参加できる全国囲碁・将棋大会を毎年主催しており、ことしで51回を数えます。

将棋では、主な新聞社などが主催する次のようなアマチュアの大会があります。

日本将棋連盟・アマ名人戦、読売新聞・アマ竜王戦、毎日新聞・アマ王将戦、朝日新聞・朝日アマ名人戦。

この他、地方紙主催の大会、職域対抗戦、高校選手権、大学選手権、企業主催の大会などがあります。

囲碁でも新聞社などの主催する次のようなアマチュアの大会があります。

毎日新聞・アマ本因坊戦、朝日新聞・朝日アマ囲碁名人戦、サンスポ・学生名人戦、報知・日本アマ最強戦。また、日本棋院や学生囲碁連盟が主催している大学、高校、少年少女囲碁大会や企業主催のアマ棋戦、国際アマ棋戦などがあります。

新聞社主催の棋戦で、地区（市・町村）大会から県大会へ代表選手を選抜して、全国大会を開いているのは「しんぶん赤旗」主催の全国大会だけです。各紙主催のアマ棋戦の多くは、東海、関西などのブロック大会で代表を選抜するとか、いきなり県大会で代表選手を選ぶ方式が多く、ほとんどが有段者の大会となっています。

「しんぶん赤旗」の大会は、全国大会代表を選抜するとともに普及をもう一つの大きな柱にしており、低段者や級位者が参加して日ごろの腕前を競いあえるという特徴をそなえています。一般紙の囲碁・将棋の担当記者などからは「(囲碁将棋あわせて)

しんぶん赤旗「全国囲碁・将棋大会」 今回で51回め

多くの人々が囲碁・将棋に親しみ、 気軽に参加できる大会めざして



毎年、一万人の参加というのはいすごい」という声がでています。

後援団体となっている日本棋院、関西棋院、日本将棋連盟からは「ゲームの普及に貢献していただき感謝しています」との謝辞をうけています。

新人王戦（「しんぶん赤旗」主催）

「しんぶん赤旗」は、は囲碁・将棋の普及発展のためにプロの棋戦である「新人王戦」を主催しています。新人王戦は、「一流棋士への登竜門」との声を高めています。また、その熱戦ぶりは気鋭の若手棋士たちが意欲的な手を競い合う中身の充実した棋戦として常に棋界でも大きな注目を集めています。

出場資格は、囲碁は「25歳以下」、将棋は「26歳以下」で、10代から20代前半の文字通り「新人」たちが腕を競い合う棋戦として好評を得ています。

歴代新人王の活躍ぶりをみてみると一。

囲碁 新人王戦が創設された1976年と翌77年の2年連続新人王となった小林光一九段は、棋聖、名人など数々のタイトルを取った実績により、名誉棋聖・名誉名人・名誉碁聖を名乗っています。新人王通算5回優勝の依田（よだ）紀基九段は名人4連覇、碁聖のタイトルもとりました。93年の新人王の結城聡九段はことし、NHK杯戦で3年連続5度目の優勝をしています。01年の新人王で新人王4連覇の記録を作った山下敬吾名人は24歳で棋聖のタイトルをとり碁界のトップ棋士として活躍中です。02年の新人王・張栩（ちょう・う）は、2009年に囲碁界初の5冠を獲得。07年新人王の井山裕太（25歳）は、張栩の5冠を超える囲碁界初の6冠（棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖）を獲得し、いまや日本の囲碁界を制覇した感があります。2011年、関西棋院所属の棋士としては結城聡九段以来18年ぶりの新人王になった村川大介七段（23歳）も各棋戦で

活躍しています。

将棋 七大タイトルを総なめした羽生善治王位・王座・棋聖は24年前、18歳で新人王になったあと、次々にビッグタイトルを獲得し、現在も第一人者として活躍しています。17歳で新人王になって以来3回優勝の森内俊之竜王・名人は、羽生3冠（王位・王座・棋聖）同様、永世名人の資格を得ています。2005年新人王の渡辺明2冠（棋王・王将）、1998年新人王の三浦弘行九段（元棋聖）が棋士最高ランクのA級棋士として活躍中です。こうした将棋新人王の活躍から「新人王戦に勝つことが一流棋士への道」と、棋界関係者やファンをうならせています。渡辺明2冠（30歳）は、いまや羽生世代の第一人者の地位を脅かす勢いを見せており、もっとも注目されている棋士です。最近の新人王では、2010年の阿部健治郎五段や2011年の佐藤天彦七段も各棋戦で活躍しています。

将棋、囲碁ともに棋界関係者はもとより他の棋戦を主催するマスコミ界からも「目の離せない棋戦」「新人王戦はすばらしい」と、高い評価を得ています。